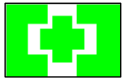
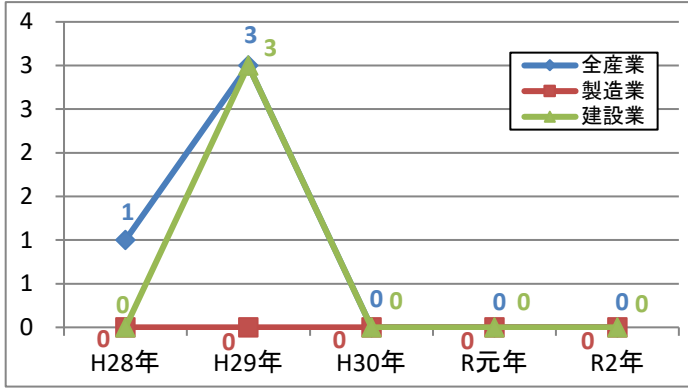


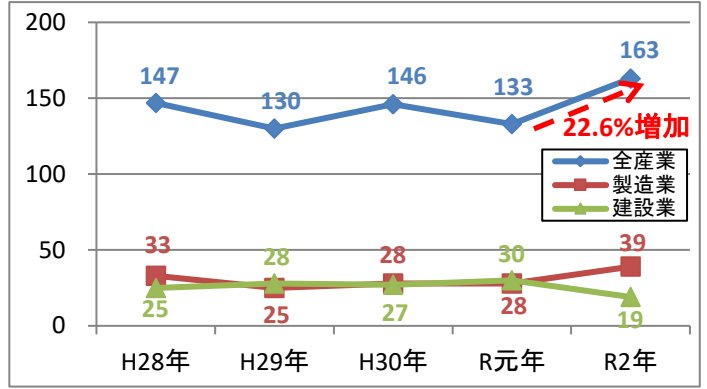
# 令和2年 労働災害発生状況



淡路労働基準監督署



死亡者数の推移

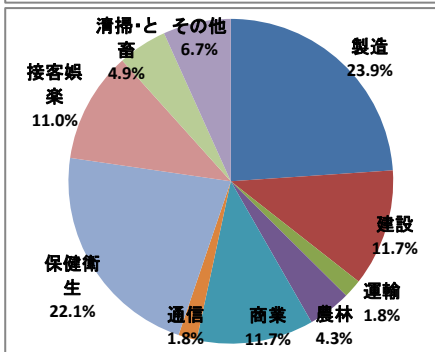
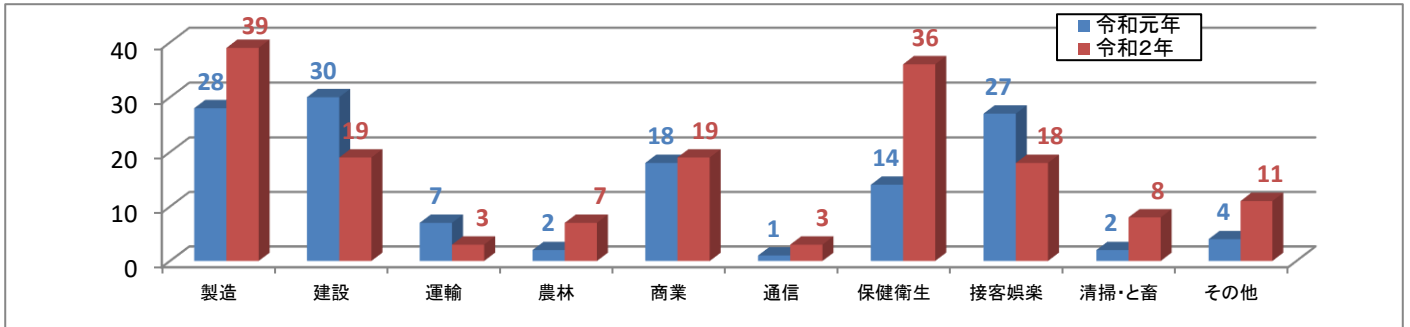


死傷者数の推移

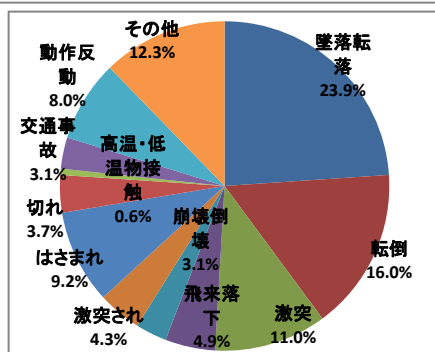
労働災害による死亡者数については、平成28年に1人、平成29年に3人発生した後、平成30年以降は0人で推移しており、死亡災害の根絶に至っている。

労働災害による休業4日以上死傷者数については、平成28年から140人前後で推移し高止まりの傾向にある。令和2年は163人と前年と比較すると22.6%の増加となっている。ちなみに、令和2年は業務中に新型コロナウイルス感染症に罹患した方が20人おり、全体の12.3%を占めている。

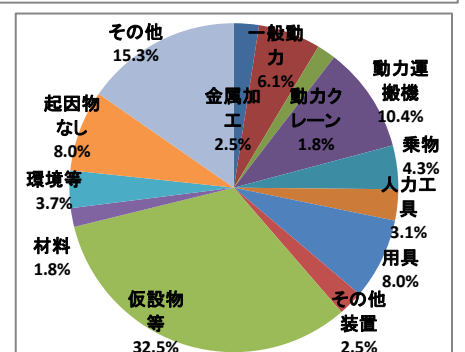
業種	令和2年		令和元年		前年比較	
	死傷者数(人)	構成率(%)	死傷者数(人)	構成率(%)	死傷者数(人)	増減率(%)
製造	39	23.9	28	21.1	11	39.3%
建設	19	11.7	30	22.6	-11	-36.7%
運輸	3	1.8	7	5.3	-4	-57.1%
農林	7	4.3	2	1.5	5	250.0%
商業	19	11.7	18	13.5	1	5.6%
通信	3	1.8	1	0.8	2	200.0%
保健衛生	36	22.1	14	10.5	22	157.1%
接客娯楽	18	11.0	27	20.3	-9	-33.3%
清掃・と畜	8	4.9	2	1.5	6	300.0%
その他	11	6.7	4	3.0	7	175.0%
全産業	163	100.0	133	100.0	30	22.6%



業種別割合



事故の型別



起因物別

業種別については、『製造業』が最も多く39人(23.9%)、次いで『保健衛生業』36人(22.1%)、『建設業』、『商業』19人(11.7%)、『接客娯楽業』18人(11.0%)、『清掃・と畜業』8人(4.9%)となっている。前年同期と比べると、『製造業』、『農林業』、『商業』、『通信業』、『保健衛生業』、『清掃・と畜業』で増加している。

事故の型別については、『墜落・転落』災害が最も多く39人(23.9%)、次いで『転倒』災害26人(16.0%)、『その他』災害20人(12.3%)、『激突』災害18人(11.0%)となっている。

起因物別については、『仮設物・建築物・構築物等』が最も多く53人(32.5%)、次いで『その他の起因物』20人(15.3%)、『動力運搬機』17人(10.4%)、『用具』、『起因物なし』13人(8.0%)となっている。

資料出所:労働者死傷病報告(様式第23号)による。